

情緒学級の複数学年授業チェックリスト

教科書学習30分を割り振るための実務シート

日付 _____ 教科 _____ 在室する学年 _____ 担当者 _____

45分すべてを教師の直接指導で埋める必要はありません。教師がつく時間、自力で進める時間、個別確認の時間を分けて設計します。

1. 45分全体の見通しを作る

導入約5分

学年ごとの教科書学習約30分

個別確認・振り返り約10分

- ☐ 導入、教科書学習、個別確認・振り返りの大枠を決めた。
- ☐ 交流学級への参加状況を確認し、実際に教室にいる子どもと学年を把握した。
- ☐ 教科書学習に使える時間を把握し、学年ごとの目安時間を決めた。
- ☐ 授業後半に、質問・丸つけ・訂正・振り返りのための時間を残した。

2. 学年ごとの時間と内容を割り振る

学年	人数	目安時間	教師が直接見る内容	待つ間の自力課題
		分		
		分		
		分		
		分		

3. 本時で教師が優先して見る内容を絞る

- ☐ 新しい概念や考え方
- ☐ 問題文・教科書本文の意味
- ☐ 音読や文章理解
- ☐ 具体物・道具の操作
- ☐ 新出漢字や新しい用語
- ☐ つまずきの位置の見極め

この授業で最も押さえたい単元目標・中心課題

直接指導と自力課題の切り分け

教師が離れても、子どもが学習を続けられる状態を作ります。

教師が直接見る内容

- ☐ 新しい学習内容や概念を説明する。
- ☐ 問題文や教科書本文の意味を確認する。
- ☐ 音読、語句、文章の内容を確認する。
- ☐ 新出漢字の読み方・書き方を扱う。
- ☐ 具体物や道具の使い方を確認する。
- ☐ 子どもがどこでつまづいているかを見極める。
- ☐ 考え方を進めるためのヒントを渡す。

自力課題に必要な条件

- ☐ 子どもが一人で進められる難易度である。
- ☐ 短い時間でも取り組める。
- ☐ 途中で止めても問題がない。
- ☐ 教科書学習の順番が来たら切り替えられる。
- ☐ 分からない問題を飛ばして進められる。
- ☐ 教科書や本時の学習内容とつながっている。
- ☐ 教師がその日のうちに確認できる量である。

1. 自力で進められる状態を作ってから離れる

- ☐ 課題の進め方を説明した。
- ☐ 最初の1問や最初の活動と一緒にいき、やり方を確認した。
- ☐ どこまで進めるか、どこで止めるかを具体的に伝えた。
- ☐ 教師が離れた後に行う活動を、子ども自身が理解している。

2. 分からないとき・待つときの約束を決める

- ☐ 分からない問題は、空欄や印を残して次へ進んでよいと伝えた。
- ☐ 教師を待つ間に取り組む課題を決めた。
- ☐ 終わった後に行う活動を決めた。
- ☐ 空欄が苦手な子どもには、選択肢や教科書をヒントにできる課題を用意した。
- ☐ 「分からないことは失敗ではない」「後から一緒に確認する」と伝えた。

3. 本日の自力課題メモ

学年・児童	教師を待つ間の課題	終わった後の課題

授業中の運用・授業後の確認

時間配分を固定しすぎず、子どもの実態と単元目標に応じて調整します。

授業中の運用

- ☐ 各学年の目安時間を意識して移動した。
- ☐ 均等配分ではなく、必要性に応じて時間を調整した。
- ☐ 低学年や支援を多く必要とする子どもへ時間を配分した。
- ☐ 学年だけでなく、その日の状態や実態を見て順番を調整した。
- ☐ 子どもが自力で考える時間には、必要以上についていなかった。
- ☐ 分からない課題で止まった子どもに、次の行動を促した。

授業後の確認

- ☐ 自力課題をやらせっぱなしにせず、内容を確認した。
- ☐ 丸つけ・訂正・質問対応を、その日中に進めた。
- ☐ 子どもが理解できた内容と、つまづいた内容を把握した。
- ☐ 単元目標に照らして、本時の中心課題を押さえられた。
- ☐ 学習内容を一度も経験しないまま終えた部分がないか確認した。
- ☐ 次時に教師が直接見る内容と、自力課題を決めた。

授業の振り返り記録

うまく回った点

授業が止まった・詰まった場面

次回、時間配分を変える点

次回までに準備する教材・約束

次時の重点

教師が直接見る内容／自力課題／支援の順番

このシートは、すべての項目を毎時間満たすことを求めるものではありません。授業が回りにくかったときの点検と、次時の改善に活用してください。